

サポートに感謝！ 当院の活動を支える委託スタッフをご紹介します

どんな時も病院機能を守り支える縁の下の力持ち。
【日本管財・設備管理センター】

業務内容

電気、ガス、水道などのライフライン、空調、環境衛生に至るまで、病院内の施設・設備を24時間体制で点検、保守、管理。熟練した専門能力ときめ細やかな心配りで安心安全な運行を支えてくださっています。

当社はあらゆる建物管理に携わっていますが、なかでも業務が複雑なのが24時間稼働している病院とホテルといわれます。特に病院はいわゆるライフラインに加えて病院独特の設備があり、その点検管理は人命にもかかわります。たとえば電源ひとつとっても、万が一のために無停電電源装置や非常用発電装置などが備えられておりフォロー体制は完璧ですが、それらがどんなときにも問題なく機能を果たせるように常に保守管理しておくことも欠かせません。

日々の巡回点検は、日勤で医療ガス設備やライフラインを管理するチームと夜勤でボイラーなどの熱源やチラー(冷却水循環装置)を管理するチームがあり、全9名のスタッフから常時日勤3名、夜勤2名が任務にあたります。また、安全快適な環境を保つため、フィルターなど設備機器の清掃業務などもびっしりと毎日のスケジュールに組まれております。私たちの仕事は普段は見えないところではありますが、その内容は建物がいつも健康でいられるよう日頃から“体調管理”し、不具合があれば適切に対応する、いわばかかりつけ医的な存在かもしれません。

加えて、トイレが詰まった、電球が切れた、ちょっと機械の調子が悪いなど、いわゆる雑用のご依頼にも、とにかく駆けつけて可能な範囲で解決を試みるよう心がけております。当院は先生から医療スタッフ、事務のみなさんまであたたかい雰囲気、いつも気さくにお声がけくださいます。お困りごとを解決した時もやさしくねぎらってくださいるので、苦勞も報われます。特にこのコロナ禍では、緊迫した状況の中でずっとがんばっておられる姿を目の当たりにしているので、私たちもしっかり務めを果たして安心安全な設備環境を守ることでサポートしていきたいと強く思っております。それがひいては患者さんの信頼にお応えし快適に過ごしていただくことにもつながると信じております。



所長 松浦 宏太さん



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

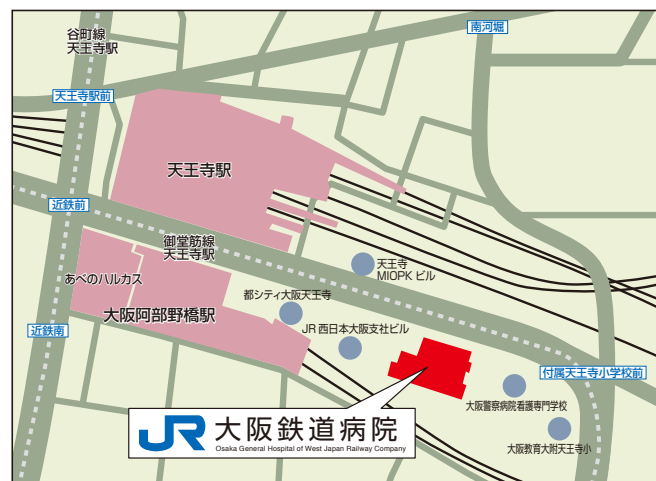
【基本方針】

安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間/午前8時30分～午前11時00分 診療開始/午前9時00分～
休診日/土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



メディカル

よりよい医療の始発駅

ぽっぽ vol.7

2021.6

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

診療科 UPDATE 脳神経内科

ドクターインタビュー/医長 竹内 潤
医師紹介/医師 諸岡 千暁

新任医師からのご挨拶

看護部の今

Radiation Station

リハビリコラム

サポートに感謝！

ご挨拶

2021(令和3)年の新年度を迎えました。地域の皆様には日頃から当院に、ご指導、ご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

昨年明け早々に発生しました新型コロナウイルス感染症は、現在もまだ収束が見通せない状況です。大阪では3月1日に第3波に伴う緊急事態宣言が解除されましたが、それも束の間、変異株主体のさらに大きな第4波が襲来し、4月25日には同宣言が再々発令され今月末まで継続される見込みとなりました。例年より早い桜の開花や鮮やかな新緑を楽しむ余裕は殆どありませんでした。大変切ない日々の連続です。しかし、明けぬ夜は決してありません。今後のワクチン接種の普及に伴う一刻も早いコロナの終息を、共に祈り頑張ってください。

コロナ診療に關しまして現在当院は、大阪府の軽症・中等症患者入院受け入れ医療機関としての対応を行っております。これにつきましては、保健所(大阪府入院フォローアップセンター)からの依頼に基づく個別対応を原則とさせて頂いておりますので、ご留意の程よろしくお願い申し上げます。また、院内での感染防止対策にはでき得る限り万全を期しておりますが、地域の皆様におかれましても、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

当院では昨年度、病院改革のための新たな5か年計画を策定致しました。その中で各診療科、部門におけます偏りのない体制整備と機能強化は大きなテーマの一つであります。昨年度は乳腺外科の新規個別標榜や耳鼻咽喉科の機能強化、地域医療連携室の拡大移設等を行いました。本年度は循環器内科の機能強化やコロナで停滞しました地域連携の更なる推進等に、改めて取り組んで参りたいと考えております。「何事もコロナのせいにせんどころ(〆)」の精神で、今後とも病院機能強化と地域連携推進に努めて参る所存であります。地域の皆様におかれましては、引き続き当院に対しますご指導、ご鞭撻、そしてご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

＊昨年度から、当院がそれまで刊行して参りました2つの広報誌(患者様向け「メディカルぽっぽ」・医療関係者様向け「地域連携ぽっぽ」)を「メディカルぽっぽ」として1本化し、年6回発刊させて頂いております。今後も紙面の充実に努めて参りますので、引き続きご笑覧頂きご意見を賜れば幸いに存じます。

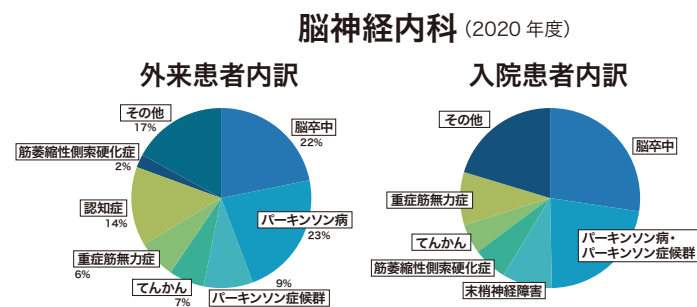
2021年(令和3年)5月8日
西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院
院長 上田祐二

脳神経内科

2019年4月、竹内医長を迎え新体制となった大阪鉄道病院脳神経内科。
診療のさらなる充実を図るとともに、標榜科名も昨年夏よりかつての「神経内科」から
変更し、より身近な診療科を目指しています。

<ドクターインタビュー>

あらゆる神経疾患に オールマイティに対応し 地域に求められる医療の 提供を。



脳神経内科が扱う病気とは

当科は、昨年の夏より「神経内科」から「脳神経内科」へと標榜科名を変更しました。診療内容をイメージしていただきやすいようにと、日本神経学会がこの呼称で統一することになった経緯があります。

「で、何を診るの?」ということですが、ひとことでいえば神経にかかわる病気全般を診る科です。ですから厳密には脳だけではなく、脊髄や末梢神経、筋肉など、神経のあるところすべてを対象として異常を見つけ、治療に進めます。脳卒中や頭痛などの頻度の高い病気から、筋ジストロフィーやパーキンソン病などのいわゆる難病、また認知症まで、その範囲は非常に幅広いものです。

基本は患者さんとのコミュニケーション

脳神経内科にまず求められるのは、正しい病巣診断です。その確定のためには、いつどんなふうになんか症状が出たのか、現在どんな状態か、などなど初診時から患者さんや必要に応じてご家族の話をよく聞くことが基本です。そこから神経のどの部分が障害されているのかを絞り込み、必要な検査につなげます。難病指定されている希少な病気が最も多い科でもあるので、かつて診たことのない病気の可能性もあるのが難しいところですが、いかなるケースでも適切な判断ができるよう、常に幅広い知識と情報の蓄積が欠かせません。



医長 竹内 潤

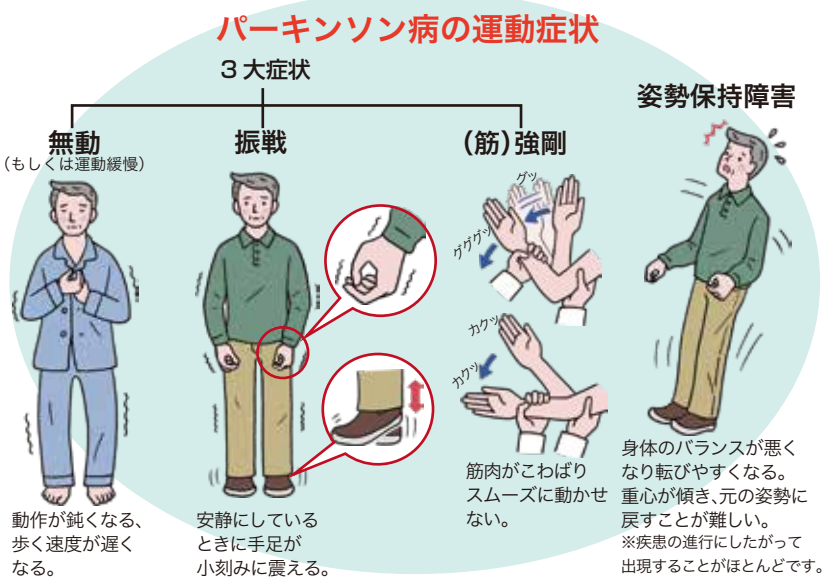
専門分野／脳神経内科全般

資格／日本内科学会認定内科医、日本神経学会神経内科専門医、
難病指定医、大阪市身体障害者指定医(肢体不自由)

また、難病にはパーキンソン病のように加齢に伴って増えるものが多い一方で、ギラン・バレー症候群のように若くして発症される病気もあります。現代医学では治療法が確立されていないものも多く、必然的に患者さんのシビアな人生に関わっていくことにもなります。進行とともにご自身の意思表示が難しくなっていくので、ご家族も含めて「今後どう生きていきたいか」というお考えをしっかりと何うことを大切にしています。病気の理不尽さは決して納得いただけるものではありませんが、少しでもよい人生を過ごしていただけるように寄り添う心と医師としての客観的な視点を両立させ、丁寧な診療を続けていきたいと考えています。結局は診断から治療のどの時期にあっても、とことんコミュニケーションを大切にすることが、脳神経内科の医師のベースになるのではないのでしょうか。

<パーキンソン病について>

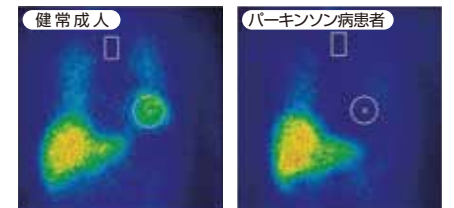
人口の高齢化に伴い患者さんが増加しているパーキンソン病。難病の中では発症率が高く 10 万人に 150 人くらいといわれています。現在は早期から患者さんに応じた治療を選択することで、身体の機能を長期間維持することも可能になってきました。日常生活で少しでも気になる、不便に感じられる症状があれば、いちどご相談を。



パーキンソン病の診断

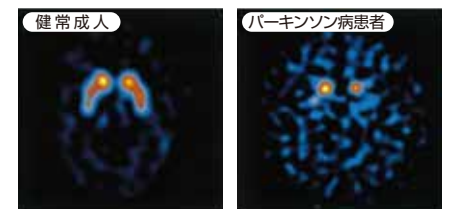
脳神経内科医による病歴と身体診察ののち、頭部 MRI、MIBG 心筋シンチグラフィ、ドパミントランスポーター (DAT) シンチグラフィなど画像検査による補助診断で確定します。

【MIBG 心筋シンチグラフィ】



MIBG という物質を注射して心臓の交感神経の動きを調べます。パーキンソン病の患者さんは MIBG の心臓への取り込みが低下しています。

【ドパミントランスポーター (DAT) シンチグラフィ】



脳内のドパミンを産生する神経の変性、脱落の程度を評価する検査です。ドパミンの産生量が減ることで身体が動きにくくなったり、震えが起こりやすくなったりします。

おそれず、あきらめず、まずは受診を

私自身は認知症の研究やパーキンソン病の専門外来、救急病院などでも経験を積んできました。当院では地域柄もあり、救急を含めオールマイティに対応することが必要です。加えてたとえば重症筋無力症の点滴治療など、市内の他院ではやっていない治療も手がけています。脳神経内科に関係するものであれば、「来たる者は拒まず」をモットーに誠心誠意、診断・治療に取り組みます。

幸い、当院は検査機器も大学病院に遜色ないほど充実しています。また整形外科が強いこともあり、関連してご紹介いただくことが多いのもありがたいことです。

さらに急性期から回復期リハビリ、退院支援に至るまでシームレスなサポートが提供できるのも当院ならではの魅力です。

脳神経内科というだけで、恐怖感をおぼえる方もいらっしゃると思いますが、適切な治療によって回復したり進行が抑えられたりする病気も少なくありません。めまい、しびれ、力が入らない、歩きにくい、頭痛、けいれん、物忘れ、意識障害などで不調をきたしておられることがありましたら、かかりつけ医の先生のご紹介でも直接でもかまいませんので、ぜひ受診してください。

STAFF 紹介

諸岡 千暁 医師 専門分野／脳神経内科全般

患者さんが話しやすい環境、雰囲気づくりを。

当院は患者さんも疾患も多様で、まさにオールマイティな対応力が求められます。お話を伺っているうちに、他の科の疾患であるケースであることに気がつくことも少なくありません。引き出しを多く持ってあらゆるケースを想定し、主訴を紐解きながら的確に対応していけるよう心がけています。

また、近年ではご本人だけでなくご家族みなさんで一緒に向き合っていくことが必要な認知症の患者さんも増えています。まだ若輩者の私ですが、医師としてご信頼をいただき、どんなこともお話いただける存在でありたいと思っています。今後もたゆまず勉強を続け鍛錬してまいりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。



新任医師からのご挨拶

大阪鉄道病院をパワーアップに導く新たな顔ぶれ。

本年4月より新たに医師と研修医が赴任しました。コロナ禍に負けない活気で
当院の医療を盛り上げてまいります。なにとぞよろしくお願いいたします。

<循環器内科>



部長 坂谷 知彦 (さかたに ともひこ)

資格/日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本不整脈心電学会不整脈専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本核医学会核医学専門医

これまで狭心症や心筋梗塞、不整脈といった心臓病に対して、主にカテーテル、ペースメーカーによる治療を専門としてまいりました。最新の技術、機器で治療できるよう努力してまいりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

医長 前田 遼太郎 (まえだ りょうたろう)

資格/日本内科学会認定内科医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士
近年の高齢化および生活習慣病の増加に伴い、心不全や心筋梗塞、狭心症、下肢閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性疾患が増加しています。このようなニーズに対応し、患者さん一人一人の人生に寄り添った診療を行ってまいります。ぜひお気軽にご相談、ご紹介くださいませ。



医長 酒本 暁 (さかもと あきら)

資格/日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本心臓血管麻酔学会日本周術期経食道心エコー認定医 (JB-POT)

中学・高校時代を過ごした天王寺で勤務することになり、大変嬉しく思っております。患者さんのお力になれるよう、日々診療に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。



<皮膚科>



部長 遠藤 英樹 (えんどう ひでき)

資格/日本皮膚科学会皮膚科専門医、日本皮膚科学会美容皮膚科・レーザー指導専門医、日本レーザー医学会レーザー専門医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医

長きにわたって大学病院皮膚科で色素性疾患のレーザー治療、皮膚アレルギーの治療に携わってきました。当院ではこの経験を活かし、患者さんのニーズに沿った皮膚科全般の診療に取り組んでいこうと思います。よろしくお願いいたします。

<消化器内科>

医長 石破 博 (いしば ひろし)

資格/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医
2008年の卒業です。専門は肝がん治療、脂肪肝ですが、消化器疾患全般も診てまいります。大阪出身ではありますが、当院が大阪での初めての勤務となります。地域の肝疾患治療のお役に立てるようがんばってまいります。よろしくお願いいたします。



<放射線科>



医長 豊辻 智則 (とよつじ ともりの)

資格/日本医学放射線学会診断専門医、日本核医学会 PET 核医学認定医、肺がん CT 検診認定医

放射線科の専門性は画像診断、IVR、放射線治療の3つが挙げられます。このうち私は画像診断、特に中枢神経領域を主に勉強していますが、領域を問わず丁寧に読影することを心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。

<血液内科>

副部長 南野 智 (なんの さとる)

資格/日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会認定専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医
これまで松下記念病院、大阪市立大学で血液内科医、造血細胞移植医として勤務してきました。この経験を活かして、患者さんのニーズにあった治療を提供できればと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



<耳鼻咽喉科>

5/6 着任

医員 森山 興 (もりやま こう)

修業中の身ではありますが、患者さんに寄り添った医療のため日々精進いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



<整形外科>



医員 小浪 裕幸 (こなみ ひろゆき)

少しでも患者さんのお役に立てるような医療を提供できるように日々精進いたします。まだまだ若輩者ではありますが、よろしくお願いいたします。



医員 本吉 俊貴 (もとよし としき)

患者さんに寄り添い、地域医療に貢献できるよう、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

<研修医(初期研修医)>

山藤 慎悟 (さんとう しんご)

山口県から来ました。医師 1 年目で至らない点もあるかと思いますが、精一杯がんばりたいと思います。何かお困りのことがあればすぐに対応いたしますので、気軽にお声がけください。



細川 剛司 (ほそかわ たけし)

これから2年間、研修医として働かせていただきます。奈良市出身ですが、学生時代から大阪にはよく来ており、この地域に愛着を感じています。患者さんのために日々精進いたしますので、よろしくお願いいたします。



杉山 雅典 (すぎやま まさのり)

京都府立医科大学出身です。1年目でまだまだ未熟者ですが、地域のみなさんによりよい医療を届けられるよう、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。



本田 一樹 (ほんだ かずき)

通っていた中学・高校が天王寺区だったので、再びこの地域で研修医として働けることを嬉しく思っています。患者さんの気持ちに寄り添い、精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします。

駒井 志保 (こまい しほ)

天王寺は、習いごとで17年間通っていたなじみのある場所で、よく見かけていた大阪鉄道病院で働けることが嬉しいです。まずあいさつからおろそかにせず、元氣よく一生懸命がんばります。よろしくお願いいたします。



矢野 朔太郎 (やの さくたろう)

大阪市立大学出身です。生まれ育った天王寺で初期研修を行えることに、喜びを感じています。コロナで大変なご時世ですが、研修医として少しでも医療に貢献できるようがんばります。よろしくお願いいたします。



新たなチャレンジを続ける 皮膚・排泄ケア認定看護師

皮膚・排泄ケア認定看護師は、ストーマの造設や褥瘡などの創傷および失禁によって生じる問題に対して専門的な知識と看護技術を用いて質の高い看護を実践できる看護師のこと。当院には現在、専従の柿元と病棟兼務の米田、2名の皮膚・排泄ケア認定看護師がいます。これまでも褥瘡対策チームやストーマ外来でその知識・技術を発揮してきましたが、2020年6月より排尿ケアチームを立ち上げるなど、新しい試みにも積極的に取り組んでいます。

皮膚・排泄ケア認定看護師の対象領域

W(Wound)=創傷

褥瘡の予防とケア、治癒促進、傷つきやすい皮膚や傷の周囲のスキンケア、アドバイス

O(Ostomy)=ストーマ (人工肛門、人工膀胱)

ストーマとストーマ周囲皮膚などの管理、装具の選択や日常生活へのアドバイス、精神的なサポート

C(Continence)=排便・

排尿の調節機能回復
便・尿失禁に伴う機能の改善を促すケア



排尿ケアチームの活動をますます活発に。

皮膚・排泄ケア認定看護師 米田 愛



疾患や治療のために留置する尿道カテーテルですが、長期間の留置による生活の質の低下は避けられません。排尿ケアチームは、専門的な目から尿道カテーテルの抜去が可能な患者さんを抽出し、チーム体制で適切な排尿ケアを行うことで排尿の自立支援と尿路感染症の予防を目指すものです。排尿の管理は快適な日常生活を送る上でとても大切です。もちろん自分でトイレに行き排尿できるようになるのが理想ですが、自己導尿やおむつ排尿も含め、一人一人に応じた排泄方法を確立することで、寝たきりの生活から元の生活への復帰に歩を進めることができます。

現在は泌尿器科の医師とリハビリセラピスト、病棟看護師とのチームで週に1度カンファレンスを行い、介入する患者さんのピックアップや情報共有をしています。さらに、現在は看護師で勉強会を開催するなど、活動を院内全体に広げつつあります。私たちの活動が看護の意識をさらに高めるきっかけになるよう、今後も努めてまいります。

地域に出向いての活動も意欲的に取り組みたい。

皮膚・排泄ケア認定看護師 柿元 奈緒子



排尿サポートチームは、実は私が皮膚・排泄ケア認定看護師になって以来、ずっとやりたかったことのひとつでした。米田と2人体制になり、チームに必要な各メンバーの理解と協力を得て、やっと念願がかないました。

皮膚・排泄ケア認定看護師の対象領域は、生命を直接左右するものではないだけに、ともすれば後回しにされがちですが、人間の尊厳に関わる大切な部分です。誠意をもって関われることが、患者さんのより豊かな人生へのサポートになるという信念を持って、活動を続けています。そうしてがんばってきたことが、当院の質の高い看護につながっているという手応えを糧に、これからも意欲をもって取り組んでまいります。

実はまだ新しくチャレンジしたいことはたくさんあるんです。そのひとつが、実際に患者さんの生活の場に出向いてのケアや指導です。以前、訪問看護師に同行し褥瘡を持つ患者さんのもとを訪ねる機会を得ましたが、実際に使用されているマットレスや栄養剤、処置の方法を現場を見て、助言ができたのは非常に有意義でした。在宅医療が増加する今後、よりお役に立てるサポートだと思えます。もちろん院内での役割もこれまで以上にしっかりと果たしつつ、少しずつ活動の幅を広げていきたいと思っています。

変形性膝関節症 その2 変形性膝関節症の医学的治療

膝の軟骨の減少によって発症する変形性膝関節症。その治療は、症状によって

1 保存療法と2 手術療法に分けられます。それぞれの症状から、治療の詳細をご紹介します。

症 状

なんとなく膝が
こわばる(初期症状)
立ち上がりや歩き
始め、階段の登り
降りの時など動作
の開始時に痛む



安静時にも痛く
膝が伸びにくい
夜も痛くて寝ら
れず、歩くのが
困難



1 保存療法

【薬物療法】・鎮痛剤・関節内注射
痛みを抑えたり、関節の動きを円滑にしたりします。
【理学療法・減量指導】膝の負担を軽減するために
筋力増強練習や減量指導等を行います。

2 手術療法

【人工膝関節置換術(TKA)】

・疼痛の原因であるすり減った軟骨と傷んだ骨の表面部分を切除して、金属やプラスチックでできた人工の関節に置き換える手術です。関節全体ではなく損傷している部分のみを入れ換えるので身体への負担が少なく、早期の回復が期待できます。
・手術翌日から膝の曲げ伸ばしや立ったり歩いたりする等のリハビリテーションを行っていき、早期退院を目指します。



手術翌日より優しく声かけを行いながらゆっくりと矢印の向きに沿って膝の曲げ伸ばしを行っていきます。

※詳細は当院ホームページの整形外科の「ひざの痛みにお悩みの方へ」をご参照ください。
※今回は変形性膝関節症その3「自宅でできる運動療法」についてご紹介する予定です。

※当院では外来リハビリテーションは受け付けておりません。

Radiation Station

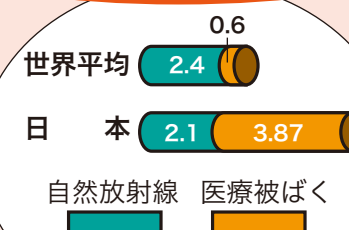
放射線部門

ご存知ですか？医療被ばくのこと。【大阪鉄道病院の医療被ばく線量管理システム】

当院放射線科では、2020年度より医療被ばくの線量管理システムを導入しています。

今回はそのご紹介をいたします。

実は日本って医療被ばく大国なんです。



しかし同時に日本は
世界有数の長寿国

ということで

医療被ばくを少なくするために
法律の改正が行われました。
その一環として、線量の管理と
記録が必要となりました。

これを受けて

大阪鉄道病院は線量管理
システムを導入しました。

その理由は、CT検査の多さとされています。

しかしX線量(被ばく線量)を低く
しすぎると画質(検査の質)の低下
につながります。

旧線量基準



←旧線量基準(橙色)では当院
のCT線量(水色)は基準を
満たしていた。

↓新線量基準では基準を
満たさないものが出てきた。

新線量基準



法律に基づいた医療被ばくの
管理・記録だけではなく、
そのデータを有効に利活用
するシステムです。
・医療被ばく情報の見える化
・撮影プロトコルの見直し
など

被ばく線量は体格や
撮影方法によって変わる
ので、個人と全体を把握
する必要があります

大阪鉄道病院は
医療被ばくの低減と
検査の質の両立を
目指しています。

※線量基準は5年に1度見直されることになっています。